

エネルギー・ビジネス



ノルウェー・オスロ市在住

木村 博子



築70年の赤いペンキ塗りの我が家

地球温暖化やオゾン層破壊等の環境問題が深刻に議論され、京都議定書が頻繁にニュースで語られるようになりました。ノルウェー北部では海水温度の上昇でタラの産卵地が北に移動し、魚の加工工場を最北部のフィンマルク地方に新築した、というニュースがあり、かつては氷上を渡れた場所なのに、近年は薄氷になって危険で渡れなくなってしまった池や川やフィヨルドが多くなったといわれ、有名な観光地プリクスダル氷河は、氷河の下端が減少し水辺から遠くなってしまったそうです。

産油国であるノルウェーは、天然ガスの生産加工、液化ガス(LNG) 事業を推進しています。化石燃料の代替エネルギーの技術開発や二酸化炭素CO₂の貯蔵方法やその割当分の国際的な売買が最近マスコミでも話題となり、エネルギー価格高騰と温暖化の危機そのものが「可能性あるチャレンジ」として語られ、ノルウェーでは巨大なビジネス分野の新開発・投資につながっています。太陽電池の材料となるシリコンの原料になる岩が豊富で、その製造・応用の技術をさらに研究開発し、ノルウェー国内外に大規模な工場を建造し、グローバルに投資・進出を始めています。このプロジェクトのもつ可能性故にソーラー・セル関連の会社の株価が急上昇しています。さらに、「ウラン」に変



電気代節約と省エネをめざしてこのようなソーラーパネルを設置する家が見られるようになりました(展示風景)

わって原子力発電の原料となるといわれる「トリウム」もノルウェーには多量にあるそうで、その実用化にむけての技術開発も重要課題だといわれています。

かつては山羊や羊の放牧が主であった辺鄙な山の農家では、最近では農地内を通る川の水を利用して、小規模の自家発電をして、その電力を販売しています。化石エネルギーであるガソリンのみに依存しないようにと、代替エネルギーとして、バイオ・エネルギー、風力や波力発電、太陽電池などの研究開発・普及が促進され、地域暖房や熱交換器は既に一般的になりました。追加燃料としてガソリ

ンに菜種油を混合して利用するという提案が出てから、急に菜種油の価格が一時急騰したそうです。

私のご近所は木造住宅なので、省エネ対策としては、窓を取替えたり、外壁と内壁の空間に遮断材を吹き込むか、あるいは、木の外壁パネルをはがして、保温・遮断材を入れて新しいパネルを張り直すかのどちらかの方法が多いのですが、やはり高価で大きなプロジェクトであるのと、工法を間違えられたりすると大変な結果になりかねないので、木造で1937年に建造された我家はもうしばらく様子をみています。